

青梅市の公の施設指定管理者評価シート

令和元 年度実施分

施設名	青梅市小曾木保健福祉センター		
指定管理者名	社会福祉法人 青梅市社会福祉事業団		
指定管理期間	平成28年4月1日～令和2年3月31日	担当課	高齢者支援課
設置目的	地域市民の福祉を増進し、生活文化の向上および健康づくりの推進を図るため、地域における福祉の拠点となることを目的としている。		

評価ランク	評価内容
S	協定等を遵守し、仕様よりも優れた管理であった。
A	協定等を遵守し、仕様に沿った管理であった。
B	協定等を遵守し、おおむね仕様に沿った管理であったが、一部に課題があった。
C	協定等を遵守できず、仕様に沿った管理ができなかった。

評価項目	評価内容	評価方法	指定管理者評価	評価理由	市評価	評価理由	
管理状況	適性な管理の履行	協定や事業計画に沿った管理が適切に履行されているか。 ・業務の履行(清掃・巡回の回数など)は適切か ・人員配置は適切か。 ・協定や事業計画どおりの管理となっているか など	月報、日報、タイムカード、メーター記録、清掃員チェックリスト、現地訪問等	A	月報等の書類確認、現地訪問等の結果、問題なく実施できた	A	日報、月報等を確認し、協定や事業計画書のとおり実施されていた。
	事業報告	定められた期間での報告および連絡が指定管理者からされているか。	施設利用状況報告	A	問題なく実施できた	A	期間内での報告および連絡がなされていた。
	安全性の確保	管理区域内の安全性については十分に確保されているか。 ・施設の安全性は確保されているか ・協定や事業計画どおりの管理となっているか など	月報、日報、点検報告書、現地訪問等	A	点検報告書、現地訪問等により状況を把握し、市へ報告・協議の上で実施できた	A	点検報告書等を確認し、安全性が指摘されたものについては速やかに市に報告され、対応していた。
	法令等の遵守	個人情報保護のための体制、書類および情報の整理および保管等は適正であるか。 ・市への報告は適時、適切にされているか など	利用者台帳	A	利用者台帳は、鍵のかかる書庫へ保管し、管理人が管理した	A	利用者台帳(書類)は適切に管理されていた。
	業務記録	業務等の記録は、適正に作成、整理および保管がされているか。	月報、日報、点検報告等	A	月報等を月毎に回収し、確認および決裁の上で月報等を月毎に保管した	A	月報、日報等は整理されており、適切に管理されていた。
	緊急時対応	災害時等の緊急時の体制は整っているか。	職員等連絡先	A	自衛消防訓練等により、緊急時の対応等の周知徹底をした	A	緊急連絡網を作成し、緊急時の対応について具体的に手順が示されたマニュアルを作成していた。
		災害時等の緊急時の対応研修、訓練等は行っているか。	職員等連絡先	A	自衛消防訓練を年2回実施した	A	防火管理者が企画した訓練を年2回実施していた。
適切な財務・財産管理	適切な財務運営・財産管理が行われているか ・建物や器具の破損、物品の紛失等はあるか など	事業報告・決算報告書、現地訪問等	A	現地訪問等により確認した	A	管理は適正であった。	
事業効果等	事業の取組	事業計画どおりのサービスが提供されているか ・事業の計画、実施、成果は計画どおりか など	事業報告・決算報告書、現地訪問等	A	事業計画どおりのサービス提供を実施できた	A	事業計画書どおりサービスの提供がなされていた。
	利用の状況	事業計画どおりの利用状況となっているか ・利用者は事業計画どおりか(環境の変化など外部要因を考慮)	事業報告・決算報告書、現地訪問等	B	施設廃止予定、入浴事業の早期廃止に伴い、利用者の大幅な減少がみられた	B	事業計画書どおりではあったが、入浴施設を廃止したため、利用者が激減した。
	利用者意見の収集	利用者アンケート等を年1回以上実施し、利用者意見の収集をおこなっているか	-	-	施設廃止予定となるため、市と協議の上で実施しなかった	-	令和元年度をもって廃止するため、利用者アンケートは実施しなかった。
		利用者の満足度を得られているか ・職員の接客対応、利用条件等は適切か	職員勤務評価、職員面談、現地訪問等	B	施設廃止予定、入浴事業の早期廃止に伴い、利用者からの不満が増加した	B	職員同士での評価により接客対応を見直しており改善が図られていたが、利用者は施設継続を要望していた。
	利用者意見に対する対応	利用者アンケート等による意見に対し、適切に改善策が講じられているか	利用アンケート等	B	市と協議の上でサービス向上よりも安全性を優先して対応した	B	入浴施設の廃止や施設の廃止予定であることから利用者の希望に沿うことはできなかった。
	行政目的の達成	行政と連携を図り施設の目的を達成しているか ・施設の設置目的を達成しているか ・市および関係機関との連携が適切に行われているか など	電話連絡等	A	報告、協議事項があれば随時、市へ連絡をし、報告、協議を実施した	A	適宜、市に対し相談、報告がなされていた。
会計	処理	管理業務の会計に関する帳簿、書類の整備および保存は適正にされているか。	試算表、元帳、証ひょう類	A	法人事務局の書庫で一括管理した	A	月毎に整理されており、適切に管理されていた。
	管理	現金等の管理は適正であるか。また、金庫等の鍵の管理は適正であるか。	小口現金	A	法人事務局の金庫で保管し、毎月残高確認を実施した	A	現金等および鍵の管理は適切に管理されていた。
収支状況	施設の収支決算状況	赤字決算に陥っていないか。 予算と決算に大きな相違があった場合はその相違の理由が的確である。	決算報告書	A	監査を行い、理事会、評議員会の承認を得て、問題なく事業終了することができた	A	問題はなく、予算と決算に大きな相違はなかった。
	指定管理者の収支決算状況	経常利益率(経常利益÷売上高×100(当期経常増益額÷経常利益×100))がプラスになっており、赤字決算に陥っていない。					
		借入金に依存した資本構造ではなく、自己資本比率(自己資本(または正味財産)÷総資本×100)が30%以上となっている。					
	流動比率(流動資産÷流動負債×100)が100%以上となっている。流動比率が100%以上となっており、事業継続の安全性に不安がない。						

1 指定管理者自己評価における評価理由、意見等

評点	数
S	0
A	13
B	3
C	0

記入欄

当施設の管理運営については、開設当初から現在まで継続して青梅市社会福祉事業団が受託してきた。施設の経年劣化等による設備面等での小さなトラブルは皆無ではないが、長年培ってきたノウハウと、協定の遵守および仕様に沿った的確な管理運営により、大きなトラブルや事故等を発生させることなく、利用者に対して適切なサービスが提供できたと考えている。

施設や設備の老朽化に伴う大規模な改修工事等については、市の財政事情等にも関することであるが、利用者の安全に関連する修繕等については、その都度、市と協議の上で対応してきた。

教養講座については、今まで市が実施してきた教養講座を継続しつつ、平成30年度に引き続き、「ゆぎ舞踊会公演会」を開催し、昔懐かしい股旅踊り・寸劇・お座敷芸・マジック・新舞踊・フラダンス等を大勢の方に観賞していただいた。

利用者からの要望・苦情等については、職員と利用者との日々のコミュニケーションの中で聴き取りを行い、必要に応じて市に報告しているところであるが、アンケート調査については、今年度をもって当施設が廃止となることから、市と協議の上で実施しなかった。

新型コロナウイルス感染症により、令和2年2月末より各種教室やサークル活動等は中止としたが、一般施設利用者については、手洗いの徹底、マスクの着用、次亜塩素酸ナトリウムによる設備の消毒、各部屋の換気および感染予防周知等を確実に実施することにより安全な施設利用ができるよう努めた。

当施設は令和2年3月末をもって廃止されるが、高齢者の地域の「交流の場」、「憩いの場」、そして「健康維持増進の場」となることが当施設の大事な役割であることを常に意識し、最適なサービスの提供に努めた。

2 市の評価、意見等

評点	数
S	0
A	13
B	3
C	0

記入欄

青梅市地域保健福祉センターの管理運営について、評価項目に従い評価した結果、適正に管理運営されていた。

本施設の管理については、適正かつ円滑な管理運営が期待できるものであった。実績報告書、利用状況報告等の各種報告事項や、施設の管理運営、設備保守等について、適切な管理が行われていた。高齢者教養講座については年間通して開催できており、また、ゆぎ舞踊会を開催するなど集客に努めていた。

建物の老朽化に伴う、不具合の報告が多くあがったが、その都度協議、対応等を迅速に行っていた。

平成30年度末に入浴施設の廃止を行ったが、結果、令和元年度の利用者は激減した。当施設は、令和元年度末をもって廃止となるため、施設を継続してほしいといった利用者への声には応えることはできなかったが、できる限り利用者の立場に立った対応に努めていた。